

(2) 教育研究計画

ア 研究主題

主体的・対話的に運動やスポーツを楽しもうとする子どもの育成
—かかわり合い「かいわタイム」を基盤とした授業づくりを通して—

イ 主題設定の理由

(7) 今日の課題から

近年、様々な変化の激しい社会の中で、子どもたちには、自ら考え、課題を解決するための思考力・判断力・表現力などの「生きる力」の育成が求められている。そんな中、子どもたちの体力の低下も問題視されており、様々な場面で体力向上の取り組みが問われている。新学習指導要領の体育科の目標として、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習課題を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指す」と掲げられている。体育科において、子どもたち一人一人の能力や興味・関心に応じて、運動の楽しさを味わわせることや、自ら考え工夫しながら運動への課題を解決させることが大切である。したがって、様々な運動の特性に触れ、自ら課題解決意識を持ちながら運動に関わることで、運動やスポーツへの関心・意欲が高まり、生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力を身に付けていく必要がある。

(4) 本校の教育目標から

本校では、「豊かな心で勸興魂の実現をめざす子どもの育成」の教育目標のもと、自ら学ぶ意欲のある子ども、豊かな人間性を身に付けた子ども、健康で明るい子どもの育成を指導の重点として取り組んでいる。この「勸興魂 勉強はベストをつくし運動はくたくたになるまで」という合言葉を全校で共有し、一人一人が最後まで諦めず、精一杯学習に取り組む姿を求めて教育活動を進めている。

(ウ) 子どもの実態から

a 普段の子どもたちの様子

本校の子どもたちは、素直で元気な挨拶ができています。外遊びも盛んで、朝の時間や昼休みには多くの子どもたちが外で鬼遊びやボールを使った遊び、遊具などで楽しく過ごす姿が見られる。また、社会体育も盛んで、野球、サッカー、バスケットボール、バドミントン、水泳など様々な種類の運動やスポーツに取り組んでいる子どもたちがいる。しかし、日常的に運動やスポーツに取り組む子どもたちがいる反面、ほとんど運動をしない子どもや苦手と感じている子どもも少なくはなく、二極化傾向にある。

b 新体力テストや運動に関するアンケート調査から読み取れる子どもの実態

平成30年度の体力・運動能力調査結果から、8種目をバランスよく身に付けている子どもは少なく、種目によっては全校的に長座体前屈や立ち幅跳びの結果が下回っていたり、女子の20mシャトルの結果が下回っていたりする。これらは、運動機会・経験の不足や偏った運動経験、さらには、運動に合った適切な体の使い方の理解不足などが要因として考えられる。そのため、体育の学習において、様々な動きの運動経験をもたせ、子ども自ら「どうすればできるようになるのか」「できるコツはどこにあるのか」といった運動への課題解決を意識しながら、運動に取り組ませる必要があると考える。

(イ) これまでの研究の流れから

本校では、平成29年度より2年間、体づくり運動についての研究を行ってきた。その中で、「できる」（課題設定、場の工夫、教材・教具の工夫など）、「分かる」（課題の明確化、振り返りの充実、

学習カードの工夫など)、「かかわる」(学習形態の工夫、対話題の検討など)を意識した授業実践を通し、子どもたちの主体的・対話的に運動を楽しむ児童の育成を目指して授業研究に取り組んできた。

体育科の研究を通して、子どもたちが主体的に運動に親しむ姿が見られた。さらに、子ども同士のかかわり合いを重ねることで、友だちからのアドバイスを聞いて動きに取り入れたり、動きに工夫を加えたりすることができ、お互いの動きの質を高め合うことに繋がった。

本年度は、「かかわり合い」に重点を置き、さらに主体的・対話的に運動に親しもうとする児童の育成を目指していく。また、昨年度の研究の課題として、授業内で取り扱った運動を授業以外で行う児童が少ないということが挙げられた。体づくり運動の内容を休み時間や他領域に繋げていくことも本年度の目標として挙げられる。

ウ 研究の目標

体づくり運動における活動中の子どもたち相互のかかわり合いや活動後の振り返りを行わせることで、児童が主体的・対話的に運動を楽しもうとする子どもの育成を目指す。

エ 研究の仮説

体づくり運動における子どもたち相互が「かかわる」活動を通して、「できた」という達成感や成功体験を味わわせたり、「分かる」という動きの理解を深めたりすることができれば、主体的・対話的に運動やスポーツを楽しもうとする子どもの育成が図れるであろう。

オ 研究の内容と方法

- 「かかわり合い」を意識した体育科学習指導の方法を検討・実践し、学習効果を検証する。
 - ・ 体づくり運動を中心とした体育の授業実践を行う。授業研究会により、子どもの実態把握と指導方法・指導内容の検討を行う。
 - ・ 子ども同士の「かかわる」活動や振り返り活動を中心に、対話的活動を取り入れた授業実践を行う。
 - ・ 学習過程や学習環境、教材教具の工夫などの検討を行う。
 - ・ 自分自身の学習の振り返りや自己に気付くためにポートフォリオ評価を行う。

- 子どもの実態と系統性を踏まえた、体づくり運動における年間指導計画の作成を行う。
 - ・ 運動に関する子どもたちへの実態調査(5月・12月)をもとに、運動に対する意識の実態把握を行うとともに、実践を通しての意識の変容を比較・検証を・改善行う。
 - ・ 新体力テストや児童の実態調査をもとに、低・中・高学年ごとに、2年間を見通した体づくり運動における年間指導計画を作成し、検証を行う。さらに、それをもとに6年間を見通した体づくり運動における年間指導計画を作成する。

カ 研究の構想

教育目標

豊かな心で 勸興魂の実現をめざす 子どもの育成
勸興魂 ～勉強はベストをつくし 運動はくたくたになるまで～

めざす学校像

子ども・保護者・地域に学び 開かれた学校

- ・ 笑顔あふれる学校
- ・ 保護者や地域の方々が通わせたい学校
- ・ 教職員が勤めたい学校
- ・ 時間を大切にしている学校

めざす子ども像

心身ともにたくましい子ども

知：考える子

- ・ 自ら学ぶ意欲（学欲）のある子ども
- ・ 確かな学力を身につけた子ども

徳：明るい子

- ・ 豊かな人間性を身につけた子ども
- ・ 時間を守り、進んでいさつができる子ども

体：たくましい子ども

- ・ 健康で明るい子ども
- ・ 困難に立ち向かう強い精神力のある子ども

基本方針【学力向上の推進】

- 分かる授業の実践
- 基礎・基本の定着
- 指導方法・形態の工夫・改善
- 課題解決型学習の推進
- 体験活動の充実
- 学習規律の確立
- 家庭学習の充実

今日的な課題

- ・ 思考力・判断力・表現力などの生きる力の育成
- ・ 生涯にわたって運動やスポーツに親しむ資質や能力を身につける

児童の実態

- ・ 運動機会・経験の不足
- ・ 偏った運動経験
- ・ 運動に合った適切な体の使い方と経験不足
- ・ 課題解決を意識させた運動への取り組み

これまでの本校の研究

- 算数科の授業研究
- ・ 伝え合い活動
- ・ 振り返り活動
- ・ 対話的な学びの高まり
- ・ 主体的に算数科学習に取り組む児童の姿

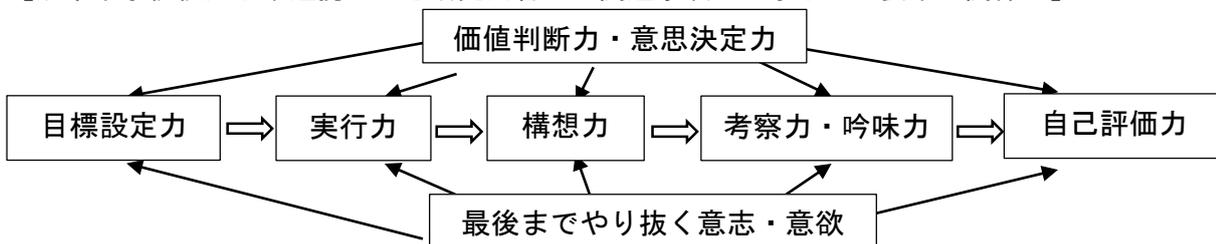
体育科の目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見つけ、その解決に向けた学習課題を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指す。

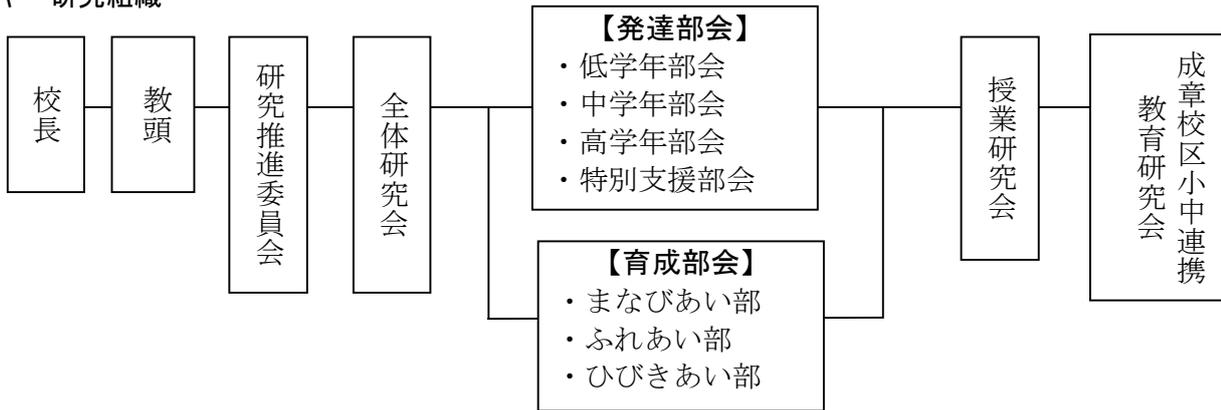
【研究主題】

主体的・対話的に運動やスポーツを楽しもうとする子どもの育成
—かかわり合い「かいわタイム」を基盤とした授業づくりを通して—

【成章中学校校区小中連携による研究内容との関連事項 <学びの7要素の関係>】



キ 研究組織



- ・研究推進委員会は、校長、教頭、教務主任、研究主任、研究副主任、各学年部代表があたり、企画・立案・連絡調整を行い、研究推進の中心となる。
- ・全体研究会は、全職員で組織し、全職員の共通理解、理論研究会、全体研究協議、問題解決のために開く。

【部会組織】 ○印は推進委員

	授業研究部	環境整備部
低学年部	○大串、木寺、副島、内田	○秋山、行武、江頭、田島
中学年部	○篠原、村田、野中、塚原	大坪知、藤原、熊井、高田
高学年部	○戸高、大坪明、原、石崎	堤、金田、是枝、帯屋
	※推進委員を中心に進める	※大串・石崎を中心に進める

ク 研究計画

1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研究の方針・研究主題・研究内容と方法・研究組織について検討と作成 ・学年経営案 ・複数担任経営案及び年間指導計画の作成 ・体づくり運動についての理論と実践についての研修(体育実技伝達講習会) ・運動に関する児童の実態調査・意識調査の実施・検証 ・体づくり運動に関する教材や年間指導計画の検討・開発 ・先行授業実践 ・研究会への参加 ・学年グループによる授業実践・授業研究会（研究主任・副主任は研究会に参加）
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案及び資料等作成 ・学習環境整備 ・研究会への参加 ・運動に関する児童の実態調査・意識調査の検証 ・各学年での実践・授業研究会 ・全校授業研究会（講師招聘） ・1、2学期の実践のまとめ及び体づくり運動に関する教材カリキュラムの見直し
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年での実践・授業研究会 ・指導案及びポートフォリオ評価等のデータ化 ・運動に関する児童の実態調査・意識調査の実施と比較検証 ・研究のまとめ（今年度の成果と課題、研究冊子作成 次年度の研究の方向性）

ケ 期待する研究の成果

- ・運動の楽しさや喜びに触れさせ、達成感を味わわせることで、主体的に運動を楽しむ子どもたちを育てることにつながる。
- ・子どもたち同士のかかわり合いを通して、運動の特性や動きの理解を図るとともに、運動技能の高まりが見られる。
- ・子どもたち自身が、「分かる」ための論理的思考力・判断力が身に付き、子どもたち自ら課題解決を行おうとする意識が高まる。